

留学生センター ニュースレター

第2号

3.26,2004

2003年度後半の活動記録

7月

異文化セッションの実施

日本語研修コースの学生が日本人と文化をテーマにディスカッションしました。

☞ P.3

9月

2002年度日研生修了

10月

秋期コース始まる

P.3に紹介しています。

岐阜大学サマースクールが、
ルンド大学の学士プログラムに決定!

12月15日に実施しました。

☞ P.4

特別講演会実施

12月



今回は日韓プログラムを紹介します。

☞ P.2

秋期コース終了

3月



留学生センターのコース紹介



今回は、日韓共同理工系学部留学生事業を紹介します。

日韓共同理工系学部留学生事業は、2000年10月に始まりました。このプログラムは、高等学校を卒業した韓国の学生が、1年間の予備教育の後、日本の大学に入学するというものです。2010年までに1000人の学生が日本の大学でキャンパスライフを送る予定になっています。岐阜大学留学生センターでは、予備教育の後半の6カ月を担当しており、2003年度で第4期を迎えました。

修了生の声

蘇 志成さん(岐阜大学工学部2年)



私は2001年に日韓(韓日)共同理工系学部留学生事業の2期生として岐阜大学にきました。6ヶ月間の日本語研修を経て大学に入学して2年近く経った今は、普通に暮らせるようになったと自分では思っています。

このプログラムの一歩の魅力は国費で4年間も留学ができることだと日本に来る前まで考えていました。しかし、実際に来てみたら予想より大変な状況に置かれました。もちろん、言語の問題や、外国で一人で生活するのも大変なことですが、国費留学生としての意識のことが頭の中でいつも引っかかります。勉強しないで遊びたいというときとか、日本の他の学生より成績がよくないときとか、先生からミスを指摘されるときには自分がこんなものでいいのかと思います。日本と韓国両国から生活費をもらい、授業料を免除してもらっているくせにと、つつい思ってしまう。でも今は、他の学生より成績が悪いと思ったりはしませんけれども・・・。

私は卒業までまだ2年が残っています。まだ半分しか来てないのかと思いますが、最善を尽くそうとこれも覚悟しています。



第2期日本語・日本文化研修留学生コース修了 9月16日



日本語・日本文化研修プログラムは1年間で実施されるもので、日本語・日本文化について深く学ぶことを希望する学部留学生に対して、将来必要とされる高度な日本語能力を身につけさせるとともに、日本文化に関する基礎知識とその研究方法を修得させることを目的としている。修了の日には、半年かけて作成した論文のプレゼンテーションがあり、みな緊張した面持ちながらも、パソコンを駆使して堂々たる発表がりで、フロアからの質問にも的確な日本語で対応していた。

修了生の声 岐阜大学での留学生活の思い出 ユー・タオさん

「光陰矢のごとし」のように、あっという間の一年間の留学生活だった。一年間の後、たくさんのいい思い出を持って国に帰った私は本当に幸せだと思う。中国に戻ってもう半年ぐらいになるが、岐阜大学でのことをよく思い出す。

岐阜大学に留学して、たくさんの日本語や日本文化の知識を獲得した。先生方は私達によく理解させるために、授業でいろいろな工夫をしてくださった。私達のクラスはいつも活気に満ちて笑い声を溢れていた。6カ国の青年が集まって、文化習慣、歴史経済、社会制度などいろいろな話題について話した。まるで小さい連合国であるように…。このディスカッションで国際理解のためのコミュニケーションが実感できた。世界が平和に発展していくためには、国際理解がいかに重要であるかもわかってきた。

また、地域文化交流会やホームステイなどの活動を通して、私は中国文化を紹介し、かわりに、日本のことも教えてもらった。このことがきっかけで、以前は自分の国にあまり興味がなかったが、長い歴史と文化を持った自国に誇りを持つようになった。その反面、中国と他国との違いを客観的に見られるようになったと思う。

今でも、クラスメートとはE-mailや電話で連絡しあっていて、2008年の北京オリンピックのときに、北京で再会したいと話している。岐阜大学で出会った人達に感謝の意いっぱいである。友情は国籍と関係がないことがわかった。これからも、岐阜大学での留学生活の思い出を一生の宝として、がんばっていきたい。



研究テーマ の紹介

サンデー、ダニエル

マカイ、ジェシカ

ユー・タオ

アリアメーティン、プラタナー

ゲイル、グリフィン

「在日コリアン - 在日韓国・朝鮮人に対する差別の歴史 - 」

「不法滞在者：日本とオーストラリア」

「土俵力士と草原猛士 - 日本相撲とモンゴル相撲(ブフ)の比較 - 」

「化粧の歴史 - タイと日本の化粧文化 - 」

「アメリカのアニメーションと日本のアニメ」



交換留学を終えて

Fu Jiayuさん



1年間の集中日本語コースが終わろうとする今、もうすぐ岐阜大学を去ってオーストラリアへ帰らなければならないと思うと悲しみが襲ってきます。10ヶ月の留学は短いですが、私の人生で最高の10ヶ月でした。素晴らしいコースに参加できて光栄です。集中日本語コースは要求度の高いコースで、宿題その他のプレッシャーはありましたが、自分の日本語能力が毎日少しずつ上達していくのが感じられました。私達を教えてくれた先生達は皆さんすばらしく、日本語を通して、もっと深い文化や社会などについて学ぶことができました。

コースの期間中、見学旅行もあり、日本に関する知識を深めることと、他の留学生と友だちになる機会もありました。留学生センターはホームステイもお世話してくれ、家族から遠く離れて暮らす私達にとって、地域の日本人と交流でき、貴重な友情を育むことができました。

岐阜大学の寮、国際交流会館に1年間暮らせたことも、とてもよかったと思います。様々な国籍の学生と仲良く暮らすメリットと、その廉価な寮費のために、生活費の心配をせずに勉学に励むことができました。岐阜大学に着いたばかりのころは、岐阜大学を選んだことを後悔しました。つまらなそうな田舎町と思ったのです。でも、1年後の今、素晴らしい思い出を作り、帰りたくない思いで一杯なのです。岐阜大学に留学したことは、私の人生で最高の決断でした。

今年も私の大学から新しい交換留学生が到着すると思います。彼等は未知の国・環境について、いろいろ心配しているでしょう。でも私がシドニー工科大学のホームページ（交換留学から戻った学生とこれから出発する学生の情報交換のページがあります）に書いたように、ここで最高の経験をするようになるでしょう。岐阜大学には安く改装したばかりの最高の寮があり、素晴らしい先生方と、留学生を毎日お世話してくれるスタッフがいて、そして、キャンパスでは生涯の友になれる岐阜大学の学生達と知り合えるのです。私の日本への関心が深まったので、将来の目標は日本で国際交流の仕事をするることによって、違う国同士に調和をもたらし、違う文化の人達を結びつけることです。（訳：牟田おりえ）

サマースクールが学士プログラムに

2003年10月に、留学生センターが中心的実施母体として毎年開催している「岐阜大学サマースクール」のプログラムに対し、協定校であるスウェーデンのルンド大学が新たな学位コースの一部として組み込むというニュースが入った。外国の大学のサマースクールを単位認定科目として認めるだけでも画期的なことなのに、岐阜大学サマースクールをルンド大学の学位コースの一部として組み入れるというのは信じられないほどの評価である。つまり、岐阜大学サマースクール・プログラムのレベル、内容、成績・評価方法その他すべてをルンド大学が評価し、ルンドの学生の履修単位としてふさわしいコースだと折り紙をつけたようなものである。私達が尚一層の研鑽と努力を続けなければ、この高い評価の維持は難しいだろうと身が引き締まる思いであった。以下が新コースの規約の英訳と日本語訳である。コースの実際のスタートは来年になるとのことであるが、第1期の学生に会える日が待ち遠しい。

掲載された記事



異文化セッションの実施

7月30日

日本語研修コースAクラスでは、コースの後半にプロジェクトワークをしています。留学生が日本で学生生活を送る中で疑問に感じたこと、興味を持ったことについて、インタビューをして、まとめたものです。このプロジェクトを基に日本人学生とディスカッションをする時間を持ちました。



日本人学生の声：

今回のようなプレゼンテーション形式で議論したりするのは初めてだったのですが、すごく面白いものであると感じました。私は、バイトに岐阜大学の留学生の方が何人かみえるので接する機会はあったのですが、異文化を比較しての話はあまりしたことがなかったので、すごく有意義なものとなり勉強になった気がします。このディスカッションプログラムは、とてもいい企画だと思います。ただ黒板に向かって話を聞いているだけではなく、人と向き合っ

留学生の声：

This is the first time of my discussion with Japanese language. I met many unexpected questions. But I think I got good experiences. I got various ideas from the students. And also I got "self confidence". This is the great satisfaction. (ミャンマー)

とてもよかったと思う。日本人大学生と話し合ったとき、みんな積極的に自分の状況を聞いたり話したりしてくれたので、私は落ち込まないで、昔からの友達のように彼らと話し合うことができた。(中国)

特別講演会の実施

12月15日

新潟大学留学生センターの足立祐子先生に「多文化共生社会のためのコミュニケーション」という題でご講演いただきました。講演では、多文化主義の先進国の状況や、地域の外国人定住者の増加に伴って生じる問題について、言語、宗教、習慣、法律上の問題など、さまざまな観点から解説していただきました。岐阜大学の学生や教職員だけでなく、外部からの参加もあり、岐阜地域の多文化共生に対する関心の高さがうかがえました。



2003年秋期日本語コースの受講生数

日本語研修コース	21
日韓共同理工系学部留学生事業	3
日本語・日本文化研修生（～2004年9月）	6

留学生センター発刊物(2003年10月～2004年3月)

- 『岐阜大学留学生センター紀要2003』 2004年3月
- 『岐阜大学留学生センター自己評価報告書』 2003年12月
- 『日本語・日本文化研修留学生修了論文集』 2003年12月
- 『異文化理解プロジェクト報告書』 2003年11月
- 『日本語研修コースAクラス
プロジェクトワーク実践報告集2002秋期～2003春期』
2003年11月

堀内センター長、おつかれさまでした！



1999年4月に堀内孝次先生が留学生センター長に着任されてから、これまでセンターの活動にご尽力いただいていたが、2003年3月でその在任期間が終わります。堀内先生に、留学生センターでの4年間を振り返ってコメントをいただきました。



学生達の論文指導や入試関係などに忙殺される2月上旬に、本学の指示で大学間協定更新のためスウェーデンのルンド大学へ事前折衝に行った。この時期に敢えて出張を承諾した背景にはいくつかの理由がある。その一つは、本学とルンド大学とは継続的で極めて実効的な交流活動がなされており、今後とも大切なパートナーである。特に同大学は学生交流においてはサマースクールを含め、常に優秀な学生を多く派遣してきている。第二は、中規模国立大学の中で国際交流のモデル大学を目指す岐阜大学にとってヨーロッパの名門ルンド大学は極めて重要な協定大学である。第三は協定書更新のこの時期にルンドを訪問し、今後の大学間交流発展のための強い絆を結んでくること。今回、これらの目的を無事果たし、この3月末で留学生センター長の任を離れるが、16年間の長きにわたり本学の国際交流史の黎明期と現在まで、それらの活動に深く関与できたのは国際化推進を望む一大学人として望外の喜びである。

センター教官はこんなことをしています！



橋本慎吾 講師



日本語研修コース（Bクラス）と日本語補講コースを担当しています。日本語を教えることは天職だと思っています。

日本語音声学が専門です。これまでは主に日本語学習者のアクセントやリズムに関する研究をしてきましたが、最近は学習者の日本語による感情表現に興味を持っています。



宮谷敦美 助手

日本語研修コースの担当をしています。初級クラスでコースの後半にプロジェクトワークをしているのですが、留学生が日本語の学習を始めて15週間ほどで、日本語で調査、発表を作り上げる過程を楽しみにしています。毎回私の中にも新しい発見があります。特に教材開発に興味があります。実際のコミュニケーション場面を反映させた教材を作りたいと思っています。